

第22回多治見市笠原幼保小中一貫教育研究会 会議録

日時：令和6年10月21日(月)19:00～20:00

場所：多治見市立笠原中学校 会議室

【出席者】

委員：岡田委員、各務委員、松本委員、近藤委員、稲葉委員、森本委員、内記委員、水野(豊)委員、加藤(裕)委員、前田委員、加知委員、加藤(智)委員、山本委員、東山委員

子ども支援課：山崎

事務局：教育長、副教育長

教育推進課：丹羽、南谷、加納(裕)、福岡

教育総務課：市川、高田、瀬瀬

教育研究所：前田

教育相談室：古川

【欠席者】

(要点筆記)

開会	
会長	・第22回多治見市笠原幼保小中一貫教育研究会を開会します。
次第1 教育長挨拶	
教育長	・本日はお忙しい中第22回目の研究会にお越しいただき誠にありがとうございます。笠原小中学校は、県内はじめ、県外も含め注目されています。県内の小中一貫校の例をみると、過疎化が進み、小、中単独では成り立たない学校が一緒になるといったように、消極的な理由で一貫校になる地域が多いです。笠原は小、中それぞれ単独で成立する中、一貫校となります。英語教育が代表するように、笠原が歴史的に一貫教育を行ってきた上での積極的な一貫教育校化となり、珍しいものでもあります。開校後、他の地域の方々が視察に訪れ、私たちが自信をもってお示しする際、この研究会で一つ一つ積み上げてきました記録が重要となります。開校まで残り1年半となりますが、この研究会がより充実したものになるよう努めていきたいと思えます。改めまして本日もよろしくお願いいたします。
次第2 笠原小中学校校歌(作曲)について	
会長	・次第2「笠原小中学校校歌・校章」について事務局に説明を求めます。 (事務局より説明)
加納様	・作曲するにあたり、歌詞を読み込み、笠原市内を周り笠原の空気を感じた上で、曲を作成しました。よろしくお願いいたします。

	(作曲披露)
加納様	・今回のものが初稿です。生徒の方々が弾きやすいように、歌いやすいように少し手を加えていきたいと考えています。また、ブラスバンド用に編曲したいとも考えており、編曲のできる方と協力して作成していきたいと思います。よろしくお願いいたします。
会長	・只今の説明、作曲披露について意見・質問等はありませんか。
笠小校長	・すてきな曲に仕上げていただきありがとうございます。子どもたちが歌う様子を頭に思い浮かべることができました。笠原には吹奏楽クラブがありますので、ブラスバンド用に編曲していただけるのもとてもありがたいです。
委員	・非常に素晴らしい作曲をありがとうございました。これから微調整していくということで、よりすてきなものとなっていくのだろうと感じました。
笠中校長	・作曲いただきありがとうございます。子どもたちが自信をもって歌える歌を作っていただいて、非常に嬉しく感じております。この曲で子どもたちが新しい学校で良いスタートができると良いと感じます。
加納様	・9年間歌い続けるものなので、誇らしいものとなってほしいと思い作曲させていただきました。

次第3 現在の検討状況について

会長	・次第3「現在の検討状況」について事務局に説明を求めます。 (各ワーキンググループ検討状況について報告・説明)
会長	・只今の説明について、意見・質問等はありませんか。
委員	・3つ質問があります。特別支援学級の名称を検討予定とありますが、特別支援学級の学年編成がどうなるのか、通級指導教室はあるのか、現在、小学生は通学班、中学生は自由となっていますが、開校後、通学班はどうなるのかの、3点について伺いたいです。
事務局	・特別支援学級は今のところ、義務教育学校前期課程の自閉情緒学級と知的学級、義務教育学校後期課程の自閉情緒学級と知的学級に分かれる予定です。自閉情緒と知的学級両方あるかどうかは、その時の人数によります。通級は今のところ笠原小学校に置く予定はありません。現状と同様、他校に開設されているところに通うということになります。義務教育学校後期課程については現在と同様、巡回担当教員が学校で指導するというようになっております。通学路の分けについては、基本的には最初の6年間を通学班、制服を着る3年間を自由登校とすることを考えています。
委員	・通級の設置の有無や巡回の有無の基準はありますか。
事務局	・設置する際には人数の基準があります。本年度は、発達通級は南ヶ丘中学校と小泉中学校に設置しており、そこにいる先生が巡回するという

	形をとっています。おそらく再来年度についても、それが基本となると思いますのでご理解の程お願いいたします。
委員	・ 1 年生～ 6 年生は他校の通級指導教室にいき、 7 年生～ 9 年生の子が巡回指導を受ける、という理解でよろしいでしょうか。
事務局	・ その通りです。
委員	・ N P O まいてから、毎年小学生の子に黄色の帽子を配付していますが、帽子は今後どのようなのか伺いたいです。
事務局	・ まだ検討段階にはなりますが、 1 年生～ 6 年生に対しては帽子があると思っており、通学班で登下校する際に黄色帽子があるとより分かりやすいと考えております。
委員	・ 小中の連携という所はよく聞きますが、幼保の連携はどのようにしているか、また幼保小中の連携は今後どのようにしていくか伺いたいです。
子ども支援課	・ 幼保の連携については現在、両方の園で調整をしているところです。保育園部と幼稚園部ができますので、子どもたちの帰る時間等を調整しながら連携を進めています。幼保小中との流れにつきましては、今後保育園と幼稚園の連携がある程度固まってきた段階で、この研究会のような場を使いながら、情報提供させていただきたいと考えています。
委員	・ 当初は 4－3－2 で義務教育課程の 9 年間を区切ると伺っています。例えば最初の区切りの最上級生である 4 年生の子が、その区切りの中で、何か中心的な役割をする場面を作るといったようなものは考えていますか。
笠中校長	・ まだそこまでは詰めることができてはいません。各区切りの中で、どこまで育てていくかどこまで自立・共生に繋がっていくのかを議論してきましたが、お示したように 6－3 の考え方の中で小・中学校を一つに動かしていく、合わせていくというところに主眼を置いているところです。
委員	・ 4－3－2 制の中では、 6－3 制で行われる修学旅行等の行事について実施されるのでしょうか。
笠中校長	・ 総合的な学習の中に、 9 年間の見通しを立てて組み込んでいく形として考えています。
委員	・ 制服について、笠原小中学校開校の際にブレザーを用意しなければいけないのですか。
事務局	・ 制服については 6 年間の移行期間を設けることを考えています。制服等選定委員会の中で、ある程度区切りがあった方が良くということ、再利用の流通に数年かかるということで移行期間を設定しています。
委員	・ 運動会は小中一緒になったら、何時に終わることになるのでしょうか。
笠小校長	・ 計画段階ではありますが、平日開催ならば午前中で終了できると見込

教育長	んでいます。休日開催ならば、11時30分までには終わらなければいけないと考えています。運動会や体育大会のあり方に関しましては、もう少し詰めなければいけないことがありますので、今後の検討課題であると思っています。 ・改めてお伝えしたいのですが、運動会のことに限らず、開校する笠原小中学校ではどのような在り方、やり方でいくのかというのを、様々な立場の人からの意見を伺いながら、議論して決定していくべきだと考えています。開校に向けてより良い学校にするために、多くの意見を出していただき議論していければなと思います。
委員 笠中校長	・学校間の教員の乗り入れについて、英語についてはありますか。 ・今年度については、検討していく中で見送らせていただきましたが、次年度は英語でもチャレンジしていきたいと考えています。
委員	・小中一貫になる目玉の一つは英語教育であり、そこも注目が集まっている理由だと思います。それが理由で引っ越してこられた方がいるというのも聞いたことがあります。専門の英語の先生が小学校に入る意義はすごく大きいと思いますし、先進的にやっていただきたいと感じています。
次第4 その他について	
会長 委員	・次第4「その他」について事務局に説明を求めます。 ・(事務局説明) ・次回開催：2月頃（事務局より連絡）
会長 委員	・全体で何か質問はございますか。 ・現在の工事の進捗状況を伺いたいです。
事務局	・現在ですが、地盤面から上の建物の解体工事が終了しています。地盤面より下の基礎の解体を進めております。大体12月末をもって解体がすべて終了し、新年からは新しい校舎の基礎工事等に取り掛かる予定です。現在の進捗としましては工程通りに進んでおります。
副教育長挨拶	
会長 副教育長	・最後に、副教育長よりご挨拶を願います。 ・皆様本日もありがとうございました。校歌に曲がつき初披露されましたが、校歌は学校がある限り何十年歌い継がれていきます。歌詞の中の一つ一つのことを、子どもたちが9年間を通して体験していく、学年が上がるにつれ校歌の意味合いが濃くなっていくことを思うと聞きながら感動しました。また将来への期待もすごく膨らんだと感じています。建設の方も順調に進んでおり、建物の解体もほぼ終わり、これから新校舎の建設も本格化していきます。本日のワーキンググループの報告の中にあるように、徐々に具体的なことが決まっていき、すでに開始している

	こともあります。令和 6、7 年度やったことを踏まえ、令和 8 年度の開校には固まっていればよいなと思います。何年か経つうちに 4－3－2 のことや様々な学校行事の在り方についても、当然発展的に改善していくことでもあります。そういったことも含めながら一先ず、これと決めてやってみるということを思っております。毎回のことはありますが、委員の皆様には、これから笠原の地域全体で義務教育学校開校の機運が高まっていくように、この会でご意見を出していただくこと、地域の方へのスポークスマンとなっていていただくことをお願いさせていただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。
閉会	
会長	・以上で、第 22 回多治見市笠原幼保小中一貫教育研究会を閉会します。

—以上—